生涯学習情報誌

フォンズ

第 37 号
2007年10月25日
発　行
常陸太田市フォンズ・ネットワーク
事務局　常陸太田市生涯学習センター内
〒313-0061
茨城県常陸太田市中城町3280番地
TEL 0294(72)8888
FAX 0294(72)8880

里川（赤レンガと銀杏まつり）

水の想い出 ㊱

里川（さとがわ）

今年もまた、紅葉の季節がやってきます。私が住む河内地区にも、紅葉を楽しめる場所がいくつかあります。なかでも、常陸太田エコミュージアムのモデルコースのひとつ「黒磯バッケ」は、ご存知の方も多いのではないでしょうか。「黒磯バッケ」が、岩肌と色づいた木々の美しさを遠くから眺めて楽しむことができるのに対して、我が家のすぐ近くには、紅葉をもっと間近で楽しめる場所があります。里川にかかる地徳橋という小さな橋の周辺は、すぐ目の前に広がる色づいた木々の美しさと、それを写しながら静かに流れる川の流れを楽しむことができ、まさに目・耳・体全体で、秋を感じることができる場所です。

20年前、この地に来てから、子どもたちと手をつないで、川沿いの道をよく散歩しました。飛び跳ねる魚や水鳥を見つけたり、蛇の泳ぎの上手さに驚くこともありました。休日には、一輪車に食材を積んで川原まで押して行き、水遊びやバーベキューを楽しんだり…里川の流れは、四季を通してたくさんの笑顔と思い出を運んでくれました。現在は、川原の形は変わったものの、下水道の整備が進み、川の水はその頃よりもきれいになったように見えます。

先日、歩き始めた孫の手を引き、川の流れに足をつけてみました…ふと、足元を見ると、ウグイの稚魚が慌てた様子で泳いでいました。たくさんの小さな魚と、はしゃぐ孫の顔を見て、またひとつ、川の流れに、大切な思い出を運んでもらった気がしたひとときでした。

関根　悦美（町屋町）

フォンズとは、ラテン語で泉の意味です。とぎれることなく新鮮な情報がお届けできるようにと名付けられました。

秋の一日のんびり町屋

～エコミュージアム 黒磯バッケ・町屋宿コース～

町屋発電所、変電所は常陸太田の電気発祥の地で、明治後期から大正にかけては、「電気みたけりゃ町屋に行け」といわれたそうです。

黒磯バッケからの眺望や歴史を感じさせる建物・町並みが残る町屋地区を歩いてみませんか。

④黒磯バッケからの眺望
根本　龍司さん 撮影

③町屋の滝
水嶋　保さん 撮影
「茨城の滝」
読売茨城タウンニュース社提供

懐かしい雰囲気の残る通りの風景

今も町の中をきれいな水が流れています
昔は洗いものに使ったこともあるそうです

⑲町屋橋

《主なサテライト》

自然・環境分野
①里川のアユ
②神永産業の桜・桃
③町屋の滝
④黒磯バッケ林道からの眺望・森林浴
⑤黒磯バッケの眺望（春:新緑／秋:紅
⑥吉田神社林（ケヤキ,エノキ,スギ）
⑦ヒガンバナ
⑧地徳河原の春の新緑,秋の紅葉
⑨大ケヤキと川遊び
⑩コナラ林の森林浴
⑪大沢の滝と地層
⑫水鳥

歴史・民俗分野
⑬町屋変電所跡
⑭町屋発電所跡
⑮金鉱跡
⑯町屋宿跡（旅館跡含む）
⑰水戸国府記
⑱吉田神社と平山寛遺徳碑
⑲町屋橋
⑳太郎坂と道陸神
㉑鎌倉坂
㉒央橋
㉓旧棚倉街道
㉔斑石と根本龍城
㉕金砂山道碑
㉖天道念仏塚
㉗石川水軒の碑

産業分野
㉘大竹豆腐店
㉙福寿納豆
㉚檜山酒造
㉛そば処「せせらぎ」
㉜ぶどう園
㉝石材店

地域文化・生活福祉分野
㉞春友手づくり工芸センター

スポーツ・健康分野
㉟春友彫刻の森運動公園

⑬町屋変電所跡

⑧地徳橋

オカメザサ
エビラを作る材料です

ツリブネソウ
形が帆掛け船に似ていることから名付けられた

⑨大ケヤキと川遊び

黒磯橋の道標（地図の★印）
まだら石で作られた道標
石の特徴がよくわかります

地域の宝をまもりたい

河内の文化遺産を守る会

河内地区にある、建物や自然などを誰よりも愛し、後世に残そうと積極的に活動している。そんな団体をご紹介します。

武藤　邦宏

平山泰弘さん　檜山貞人さん

活動のスタートは?

平成6年、それまで赤レンガ（旧町屋変電所建物）は公民館代わりとして使っていました。新しい公民館ができて、取り壊されそうになりました。その時、この宝物を失くしてはならないと、数人でポケットマネーを出し合って守る会を作ったのが始まりです。

現在は、会員が約50名、お祭りの

時などに手伝いに来てくださる実行委員も含めると80人以上で活動しています。

おおむね毎月1回、赤レンガの建物の掃除、雑巾がけ、周囲の草刈などを行っています。以前は東京電力の方に手伝っていただいて草刈作業を行ったりもしました。

行灯がすてきですね……

当初の予定では、50～60個くらいの行灯を変電所に向かう道沿いに点々と並べるつもりでした。でも老人パワーで次から次へと作って、約500個!!

初めて行灯に火をともしたときには、その幻想的な光景に、作った本人たちが思わず「うわ～」と声を上げてしまいました。

トラブルは何度もありました。小雨が降っていて点火するそばから消えて

しまったりとか、太いロウソクを燃やすので、支える釘がチョット細かったばかりに傾いて、行灯の障子紙を焼いて

しまったりとか、風が強くて飛ばされそうになったり、今では1500個と、大量に増えた行灯の収納場所に困ったりしました。

その度にみんなでアイディアを出し合って、行灯のつくりを改良したり、篠を500本も取ってきて飛ばされないよう補強したりしたんです。

私達はみんなのアイディアを大事にします。難しそうなこと、今までやらなかったことでも否定はしません。もし、やってみてダメだったら、またアイディアを出し合えばいいじゃないですか。

そして、これからもずっと地域の宝物を守り続けて行きます。

赤レンガと銀杏まつり

日時　11月17日(土)～18日(日)

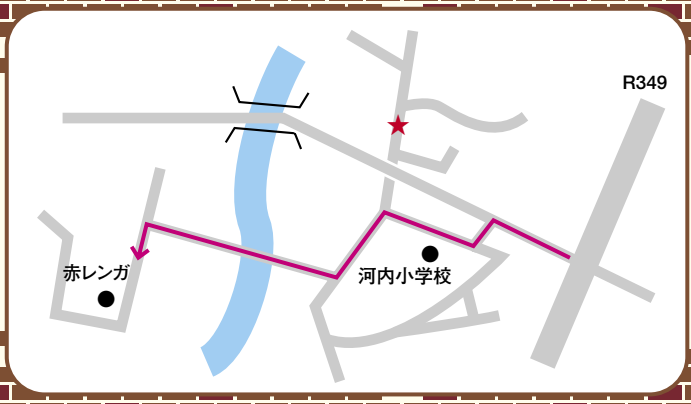
12:30～　映画会

15:00　行灯点灯式

15:30～18:00　コンサート

ジャズオーケストラ・ピアノ・サックス

オカリナ・ハンドベルなど



広がりをつくる〜点から線へそしてさらに

さまざまな活動を広げようとするとき、誰もがぶつかる壁「資金難」。河内の文化遺産を守る会では自分たちの努力でその壁をも乗り越えようとしています。会員の手作りによる草木染の手ぬぐい、水墨画で描かれた懐かしい風景の絵葉書の発行。壁の存在は、会員の知恵を生み出し、支援の輪を広げる手助けに変わって行ったのです。（相原早苗・塩原慶子）

水墨画の作者　和田弘さん

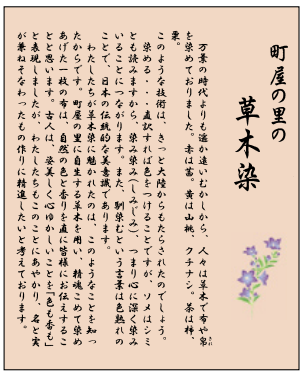
水墨画で描かれた央橋の額を事務局の檜山さんがたまたま訪れたお宅で見た時に「故郷の風景を水墨画の絵葉書にしよう」とひらめき、銀杏祭り2年目から販売をするようになりました。その水墨画を描いているのは、和田弘さん。水墨画の指導も長く務められています。

草木染のまとめ役　根本正子さん

「草木染めで何か作れないか」と考え、人づてに染めの先生を探し、基礎から教えてもらってスタートしたのだそうです。「小さなことも大切にする」をモットーに染めの材料も地元の草や葉を集め、故郷の色を出す工夫をしています。染の工程で、たんぱく処理剤を入れた湯で布を煮込む作業などは、力のある男性会員の仕事。多くの人の協力で500本を売り切り活動の支えとなっています。

コピーライター　梶原公平さん

草木染の手ぬぐいに入っている紹介文を書いたのは梶原さん。放送作家として活躍していた梶原さんは一時期町屋に住んでいたことがあります。その時のつながりで根本さんの草木染の手助けをすることに。町屋時代に万葉集を根本さんとともに学んだことを生かし、故郷への思いと草木染の色を重ねてしっとりと表現してくださっています。



草木染手ぬぐい 絵葉書プレゼント

「河内の文化遺産を守る会」のご協力により、絵葉書と草木染の手ぬぐいを抽選でそれぞれ3名の方にプレゼントいたします。ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号・フォンズの感想を書いて下記までお申し込みください。発表は発送をもってかえさせていただきます。

締切　11月20日（火）必着

宛先　〒311−0061
常陸太田市中城町3280
常陸太田生涯学習センター内
フォンズネットワーク

なかよし5軒のイルミネーション2007

「ここは茨城県北で最初に電気が灯った所だから」「地元の人達や子どもたちに楽しんでもらえたら」「最初は小さいけれど、灯りの輪が広がっていったらいいね」と7年前に始められたイルミネーション。町屋町の北、旧道沿いにある150m間の5軒の家族が集まり、話し合いの中から生まれたアイデアを毎年飾り付けしています。この町で暮らしこのまちを愛するメンバーの「イルミネーション2007」は12月2日午後5時点灯です。（場所は、左頁地図の★印、12月末まで）

表現者たちの里

表現の手段として陶芸を選び創作活動を続ける人が多く住む町。表現者として魅力ある陶芸家の皆さんと、夫婦・親子・家族それぞれに個性あふれる作品の数々をご紹介します。（武藤邦宏・塩原慶子）

武藤雄岳さん・比呂子さんご夫妻

武藤さんが「常陸窯」をつくり今年で27年目。伊賀・信楽、梅華（かいら）皮釉（ぎゆう）の作品など手掛けてきました。「今年は秋色の器を作っていきたいと考えています」「こだわらず自分がやりたいものを形にしていきたい」、と雄岳さん。比呂子さんの作品は「子供服シリーズ」や写真のようなバレーのシリーズなど見ているだけで楽しさを感じさせてくれます。二人の作品が飾られたお住まい兼ギャラリーは、自然の中で肩肘を張らず生き生きと暮らすお二人のライフスタイルそのまま。ギャラリーを拝見していうるうちにあっという間に数時間が過ぎるほど居心地の良さは抜群です。

武藤雄岳さんの作品

「3年後の30周年には現在油絵を勉強中の娘と家族展ができるといいな」と考えているそうです。作品の展示会は終わったばかりだそうですが、お二人の作品を拝見するのは、ご自宅が最適ではないかと思います。武藤ご夫妻の温かい人柄と作品のファンになることうけあいです。

武藤比呂子さんの作品

根本さんの作品は多くが黒と白のモノトーン。色から重さを想像し、器を持つとまずその軽さに驚きを感じます。根本さんの作品は磁器。「磁器は白の肌が特色、その磁器に黒の釉をかけることは人はあまり考えないですね」。自由な想像力が生み出した器たちは、まさに根本聡子さんそのもののようです。「陶器」として日常に使える器の要望がどうしても先行しがちな世界ですが、「立体の造形が好き」という根本さん。自分の思うままに表現するためにはまず確かな技術が必要です。私たちの思考の枠を飛び越えるような根本さんの器からは、大地の風を感じるような気がします。

根本聡子さん

根本峻吾さん、茜さん

陶芸家のご両親（根本達志さん、ひとみさん）のもと、小さい頃から陶芸に親しんできた根本峻吾（しゅんご）さん、茜（あかね）さん兄妹。

茜さんは県の窯業指導所で研修中。来年春に卒業してプロの作家さんの仲間入り。“陶芸家の卵”です。

「見た目がかわいい、美しいだけでなく使いやすい器などを作っていきたい」と取り出したお皿はお母さんとの合作。持ちやすい深型の小皿に、土の色を生かしたやさしい絵付けで、そのままでも料理を盛っても楽しめそうです。

茜さんの作品

峻吾さんは高校生の時、一般の「全国アマチュア陶芸大賞かさま2004」で大賞を受賞。研修生の頃から笠間の販売所などに作品を降ろしている。“新鋭の陶芸家”です。

「今、こんな色合いのものに、取り組んでいます」と見せてくれたのが写真の作品。ひとつの技法にとらわれず積極的に作陶活動しており、まだまだ作品の幅が広がっていきそうです。

峻吾さん作、ランプシェード

ウィークエンドシネマランド

市内で活動しているボランティア24団体で構成する太田地区ボランティア連絡協議会では、会員研修の取り組みとして、シネマランドと協働で映画上映会を開催することとなりました。上映作品として皆様にお勧めしますのは難病の妻を支える夫や夫婦の心の絆を描く「ユキエ」です。原作は吉目木晴彦「寂寥郊野」（芥川賞受賞作）で、新藤兼人氏が脚本を書き上げており、また監督の松井久子さんは福祉や介護、高齢者や家族の問題を意欲的に撮り続けている監督です。ぜひお出かけください。　（相原早苗）

1月26日（土）

◆上映時間　午後1：30～　◆入場料　無料
◆整理券配布　12月15日（土）午前9時から
※月曜日休館
◆問合せ先　生涯学習センター
TEL 0294-72-8888

アメリカ・ルイジアナを舞台に、初老を迎えたアメリカ人の夫と、アルツハイマーという難病に襲われた日本人の妻の夫婦愛のドラマ。「スロー・グッドバイ～緩やかな別離」にいたる日々を薄れゆく記憶と懸命に闘う妻と、彼女を励まし愛し続ける夫の姿を、静かなタッチで描き、生きること、愛することの美しさを伝える。

12月15日（土）
午後1:30～
ブレイブストーリー
（本編111分）

2006　フジテレビジョン/GONZO/ワーナーエンターテイメントジャパン/電通/スカパー！WT
2006 Warner Bros. Entertainment Inc. All rights reserved.

宮崎みゆきのベストセラー原作！
豪華声優キャストで贈る、小さな勇者の冒険ファンタジー!!

ワタルは11歳の少年。ある夜、階段の上に奇妙な"扉"を見つけ、その中へ入っていく転校生のミツルを見つけた。ミツルは「扉の向こうに行けば、運命を変えられる。ひとつだけ願いが叶うんだ」という。平凡な毎日を送るワタルだったが、そんな普通の幸せはある日、前ぶれもなく奪われることに。お父さんが突然いなくなり、ショックでお母さんが倒れてしまったのだ。「運命を変えられる」というミツルの言葉を信じ、ワタルは"扉"へと向かった…。ワタルの運命をかけた冒険の旅が始まった！松たか子や常磐貴子などの豪華声優キャストや、今人気の"Aqua　Time～決意の朝に"が主題歌として使われている、そんなところもチェックしながら観てください。（山田　秀樹）

子育て奮闘記　踊るママパラダイス㊲

何か違うと思ったら…

ユースケが赤ん坊の頃。夏というより梅雨の時期だったと思います。いつもは朝早く目覚める彼が、ぐっすり眠っているので、そのまま起こさずにいました。9時を過ぎても、10時になっても、ぐっすり眠っている…、ぐっすり？確かに寝息を立ててすやすやと寝ているように見えるけど…いつもと違うような気がする。

私は、彼の体をゆすってみました。それでも起きない。抱き上げて、名前を呼んでみました。するとうっすらと目を開けて、コテンと再び眠ってしまいました。「これは、やばい。」後は、ゆすって起こして、水を飲ませて病院へ駆け込みました。病院の待合室で「そうだ、オムツを替えてないや。」と開けてみると、夕べの就寝時からなのに、ほんの少しのおしっこしか出ていませんでした。脱水、もしくは熱中症というやつです。当時、12年ほど前は、まだ熱中症という症状はあまり世間に知られていなくて、まさか家の中でこんなことになるとは思ってもみませんでした。今考えると恐ろしい話です。

水分をたくさん取らせて、夕方近くなってようやく、おしっこが順調に出始まり、本人も、いつものように機嫌よく過ごすようになりました。

いつもと違うと、感じることは大切なことです。体の変調や、心のざわめきを読み取るために、親は子どものいつもと違う様子を見逃してはいけないのだと思います。「手を離しても目を離すな。」とよく言われます。うるさく「何かあったの？」と聞く必要はないけれど、特に思春期の難しい時期に「いつもと違う」ことを見逃さないのは大切な仕事。そういえば、私の子どもの頃、ついた嘘はことごとく見破られていました。わりとほっとかれて育ったように思えても、きちんと見ていてくれたのだと思います。

―― わいわいネット　織田　裕子 ――

リレーエッセイ

「思い出の本」 ～36～

（大里町　渡辺洋子）

「ちゅーりっぷほいくえんには、年長のほし組と、年少のばら組があります」そんな内容の出だしから始まる「いやいやえん」を読んだのは、小学校の4、5年生ころだったと思う。小学校の中高学年が読むには、ひらがなが多くて、実際、本にも4才～小学校初級向きと書いてあるけれど、何度しかられても、ぜんぜん平気でいる主人公の「しげる」が面白くて、何度も繰り返し読んだ覚えがある。大人になってもずっと記憶のどこかにあって、いつか、もう一度読みたいと思っていた。子どもに読み聞かせる本を探していた時、この本を見つけた。この時、わが双子の娘たちが通っていた幼稚園には、年少のばら組と年長のほし組があり、まさしく主人公の「しげる」と同じばら組だったものだから、最初のページを読んだときに、二人とも、きゃあきゃあと喜んでいた。現実にありそうな子どもたちの園生活なのに、鯨が出てきたり、熊が一日入園したり、おもちゃが逃げ出したりと、非現実的なところがあり、けれどそれは「本当にあるかも」と思ってしまえるところが、この本の面白いところだと思う。下の息子にも分かってほしかったが、「ちゅーりっぷほいくえんの70近い約束ごと」を、読んでいたら、最初の三つで「もういいよ」と断られてしまった。残念！面白いのはこれからなのにな…。そろそろ、もう一度チャレンジしてみようかな。

（次回は　大里町　大津　理恵さん）

ほっとひといき

ハラビロカマキリ

「カマキリは蜘蛛も食べるのかな？」と妻に聞かれたのが昨年の10月21日でした。「なんで？」と聞くと、「今朝、ベランダでカマキリが蜘蛛を狙っているのを目撃して、写真を撮ったの。」というのです。傷だらけの大きなカマキリが蜘蛛を狙っている写真でした。(写真①) 翌朝、その場所へ行って見るとなんと卵塊があるではないですか。(写真②) ネットで調べて、そのカマキリがハラビロカマキリだと解りました。うまくいけば翌年の晩春には赤ちゃんカマキリの誕生が見られると楽しみにしていました。

そして、今年の5月28日のことでした。ついに、赤ちゃんカマキリの誕生に立ち会うことができました。(写真③) いっぺんにぞろぞろ出てくるのではなく1日～2日くらいの間にパラパラと出てきました。なかには、両方の後ろ足がくっついたままで歩くことができない赤ちゃんもいました。なんとか離してあげたのですが、うまく歩くことは出来ませんでした。「あの子はたぶん大きくなれないだろうね。」「あんなに大勢生まれても親になれる子は数匹しかいないだろうね。」「あの子達のお母さんの体も傷だらけだったよね。」などと妻と話しながら、時間を忘れて見ていたことを覚えています。

①

②

③

④

この話には続きがあります。8月14日のことです。ベランダで、まだ親の大きさになっていない少年（？）ハラビロカマキリを目撃しました。(写真④) 断定はできないのですが、この子はあの赤ちゃんカマキリ達のなかの一匹だと思っています。‥‥だったら良いな。

この号が発行されるころ、あの子達の誰かがここへ卵を生みに戻って来ることを楽しみに待っています。

（文：五十嵐　弘　写真撮影：五十嵐　恵子）

ちょっとひといき

『らあ麺や　コント』

住　　所　春友町504-3
電話番号　0294-78-0168
営業時間　11:00～15:00
　　17:00～21:00
　　(日曜は11:00～21:00)
定 休 日　毎週木曜日

ボクが今回、なんとしても取り上げたいのが“コントの餃子”です。

ぜひ、最初の一口は調味料を一切つけずに味わってほしいと思います。焼き面が、パリッ！パリッ！とした皮の中から、肉や野菜等の旨みがジュワ～と溢れ出してきて、ほのかな甘味が口の中に広がります。

あとは、そのままでも、お好みの調味料をつけても、おいしいのですが、コント流ならば大根おろしです。お醤油と大根おろしでサッパリと頂くと、何十個でも食べられそうです。

（場所は、3頁地図の★印です）　（武藤邦宏）

フォンズのバックナンバーはホームページでご覧になれます。
常陸太田市（http://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/）→「生涯学習センター」→「情報誌」です。